

【凡例】

- 刻印印影(右上英字は確度)
 - A: 確実 (社章・番号で刻印検出、文献等の裏付けあり)
 - B: ほぼ確実 (社章・番号で刻印検出)
 - C: 推定 (刻印分布や共同・状況などから推定)
 - D: 仮定 (情報蓄積により否定される可能性あり)

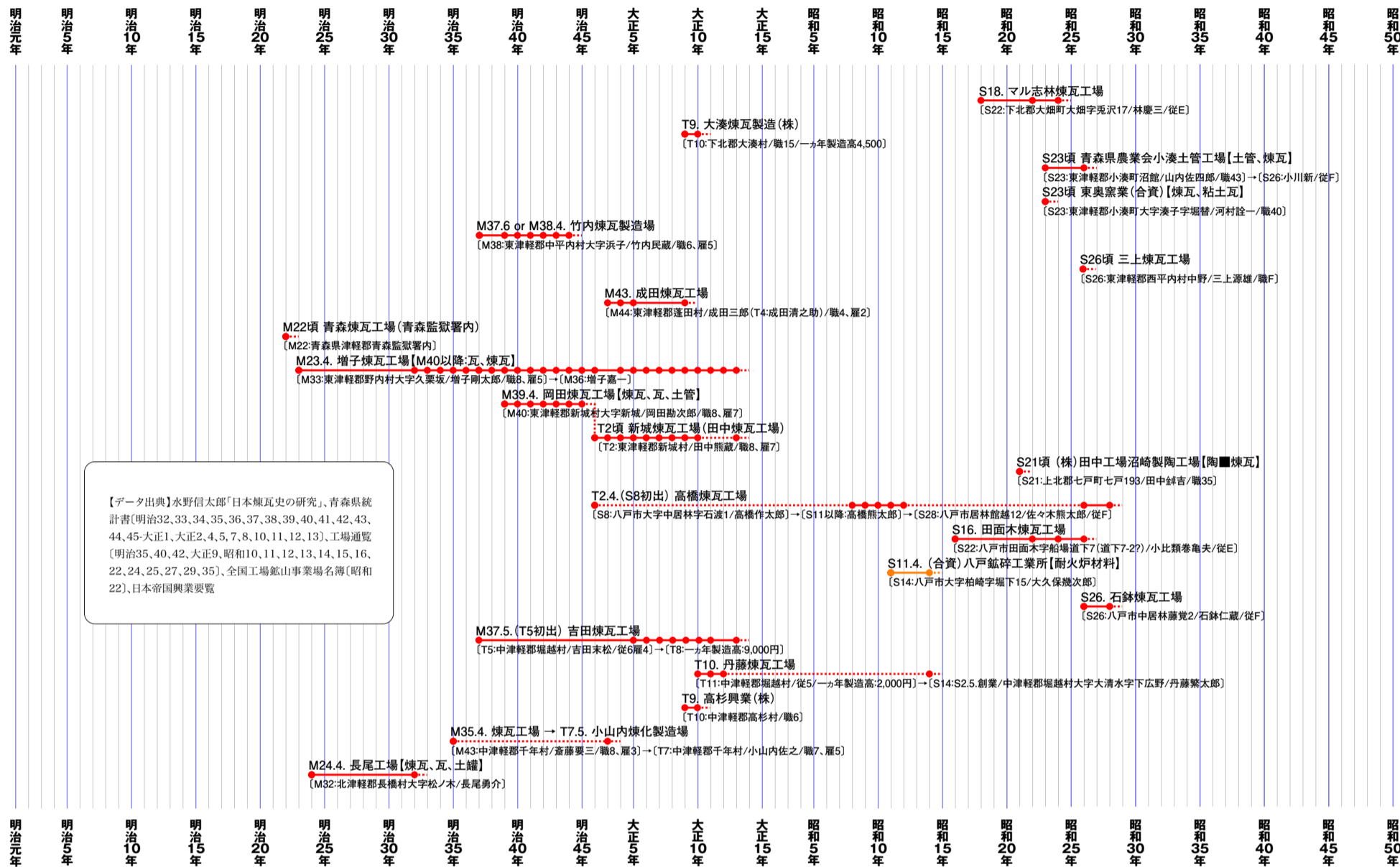
同じ所在地で所有社・社名の変更があった場合「→」で列記

M42.7. 須賀川製瓦(合資)【本場赤瓦、土管(M44:赤瓦、煉瓦)】
(M42:岩瀬郡須賀川町/関谷重太郎/職8)→(T8:電動機1/2)

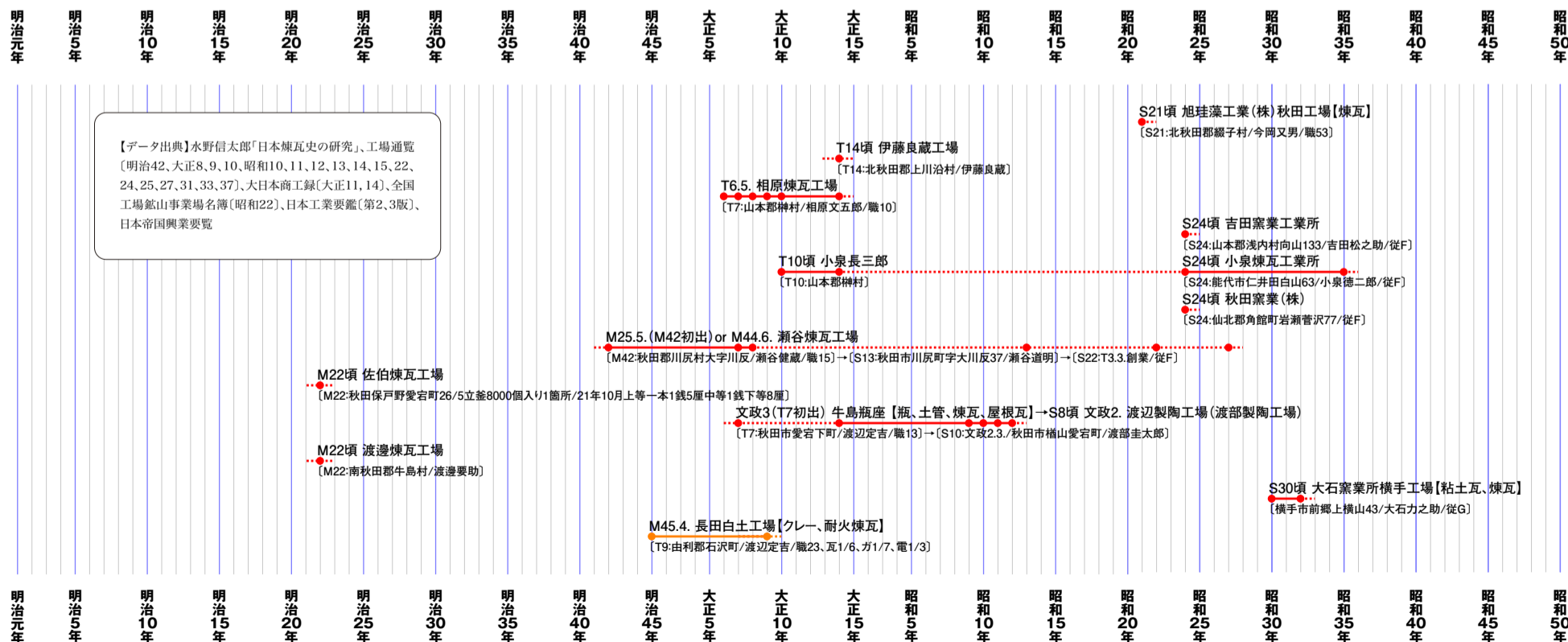
時点:所在地(旧市町村名)/社長・代表者/工場規模

●は文献で操業が確認できた年度を示す
赤は普通・化粧煉瓦、オレンジは耐火・耐酸煉瓦類、桃はその他。破線は操業状況が不明or別業で操業

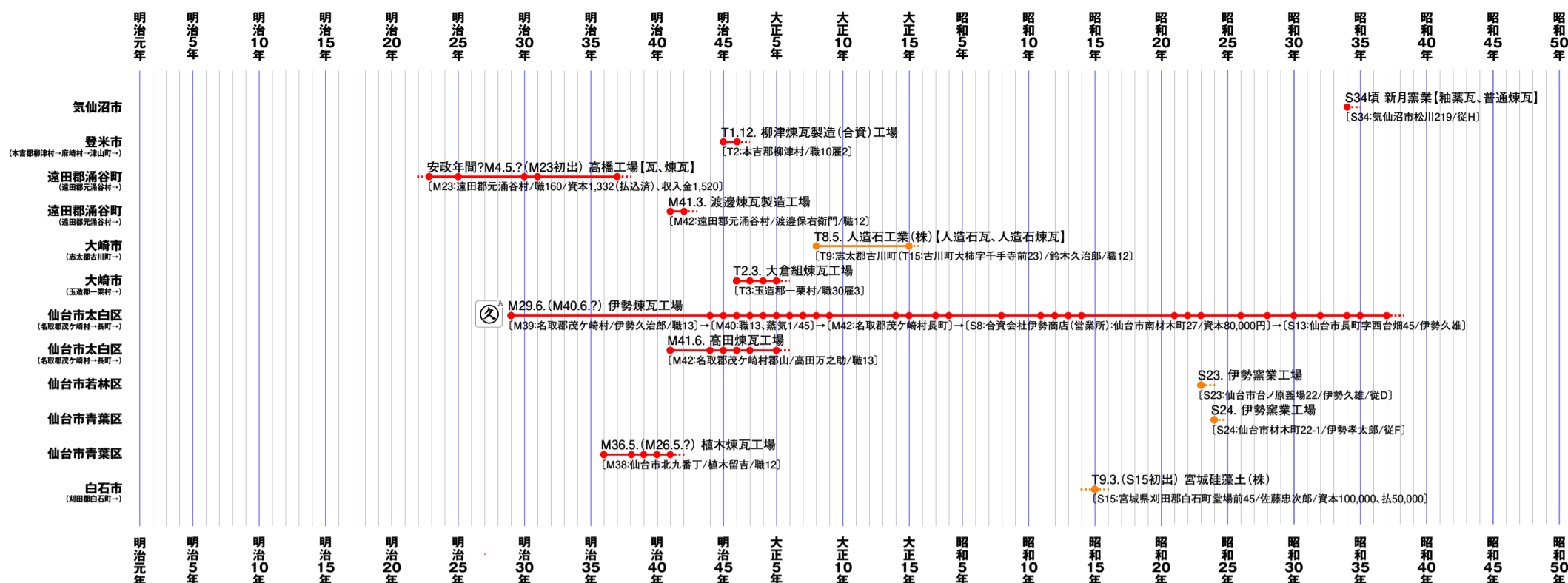
※創業年は資料によって異なる。信憑性の高いものを恣意的に採用した。
※会社名×は設立だけで実稼働しなかったと思われる会社(職工数の登録がないなど)。▲は販売会社。
※刻印印影は2019年2月現在における推定。データの蓄積により訂正される可能性あり。更新版は <http://bdb.kyudou.org/documents/factorylists/> にて配布。



青森県下煉瓦工場の消長

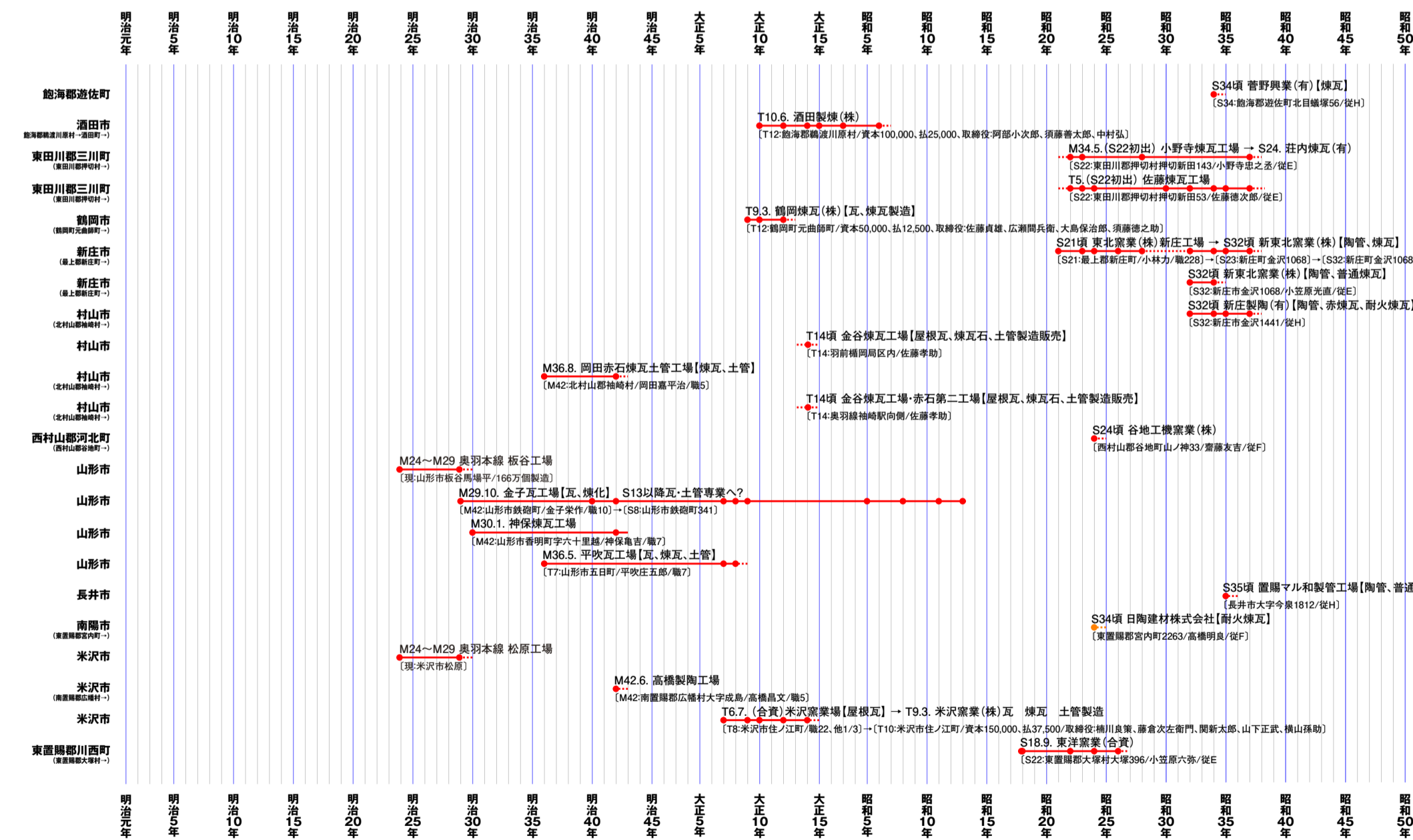


秋田県下煉瓦工場の消長



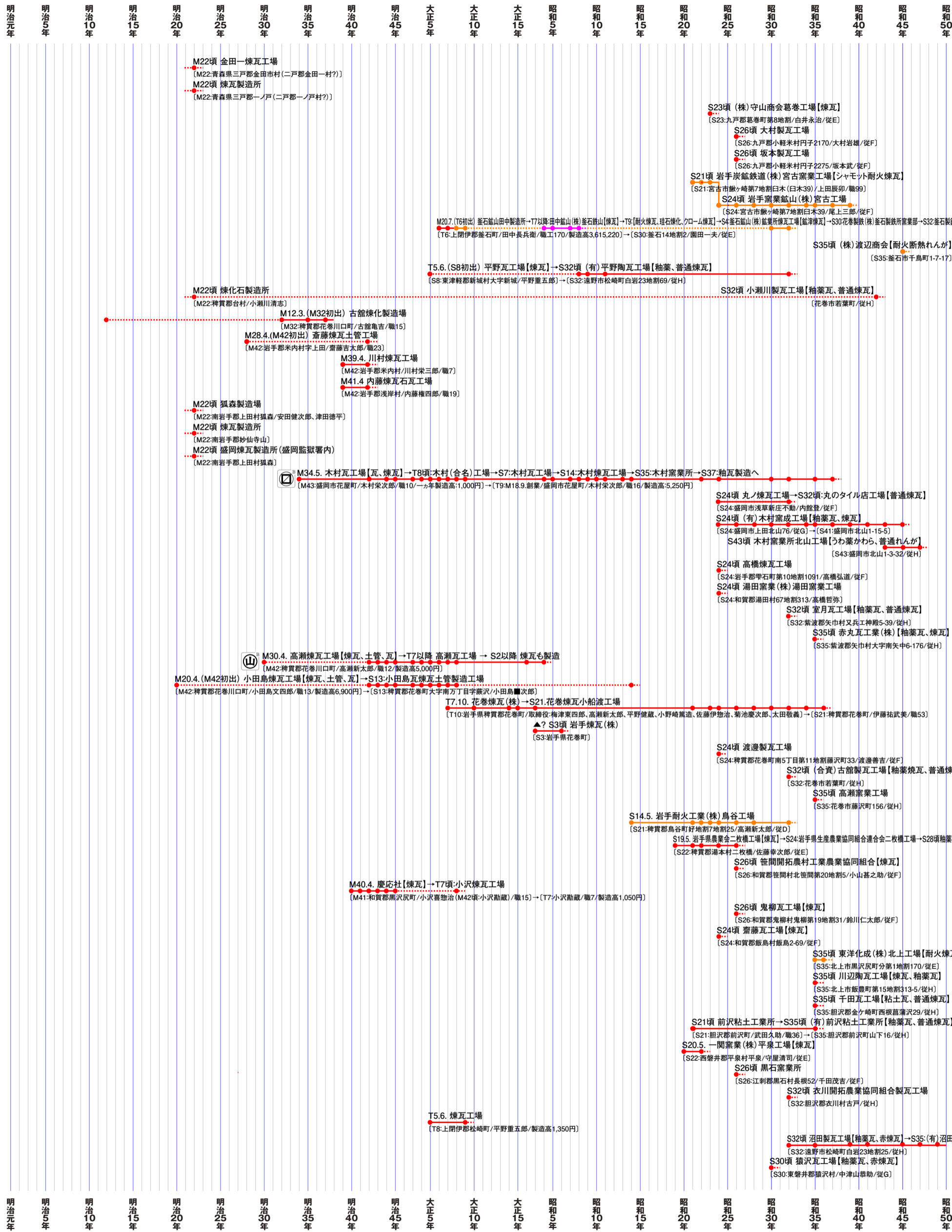
【データ出典】宮城県統計書(明治23, 25, 26, 30, 31, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45-大正1, 大正2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9)、工場通覧(明治37, 40, 42, 大正8, 9, 10, 昭和4, 7, 15, 16, 22, 24, 25, 27, 29, 31, 33, 35, 37, 39)、大日本商工録(大正7-8, 11, 14, 昭和3, 6, 18)、商工興信録(大正1)、帝国商工信用録(大正3, 昭和13分冊)、窯業銘鑑(大正14)、全国工場鉱山事業場名簿(昭和22)、日本工業要鑑(第17, 19版)、全国工場鉱山一覽(昭和2)、帝国商工録(分冊(昭和12))

宮城県下煉瓦工場の消長



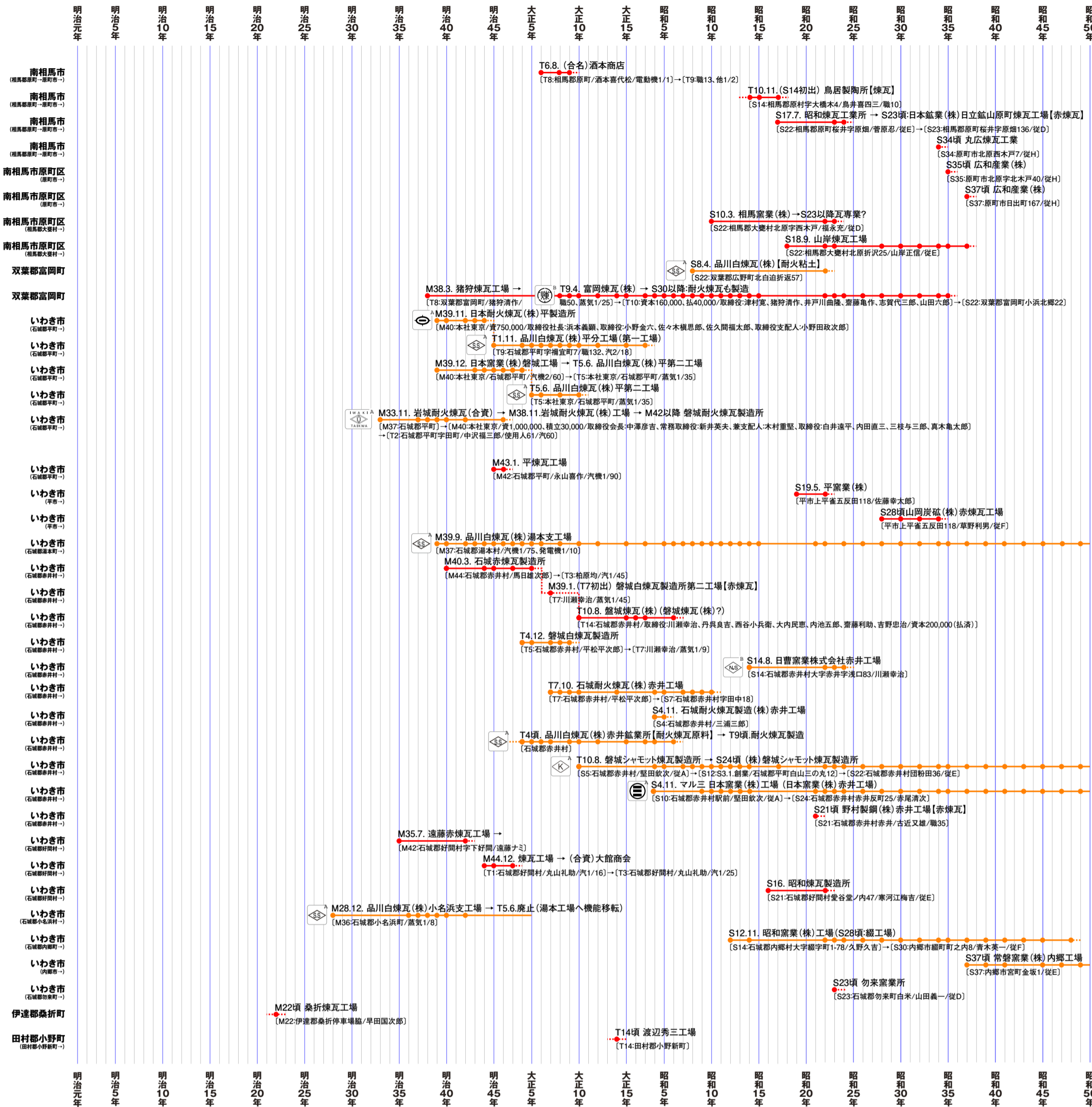
【データ出典】工場通覧(明治40, 42, 大正8, 9, 10, 昭和7, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 22, 24, 25, 27, 29, 33, 35, 37, 39, 41, 43, 45, 47, 49, 51, 53)、大日本商工録(大正11, 14, 昭和3, 6, 18)、帝国商工信用録(大正3)、窯業銘鑑(大正14)、全国工場鉱山事業場名簿(昭和22)、日本工業要鑑(第12, 14, 16, 17, 19版)

山形県下煉瓦工場の消長

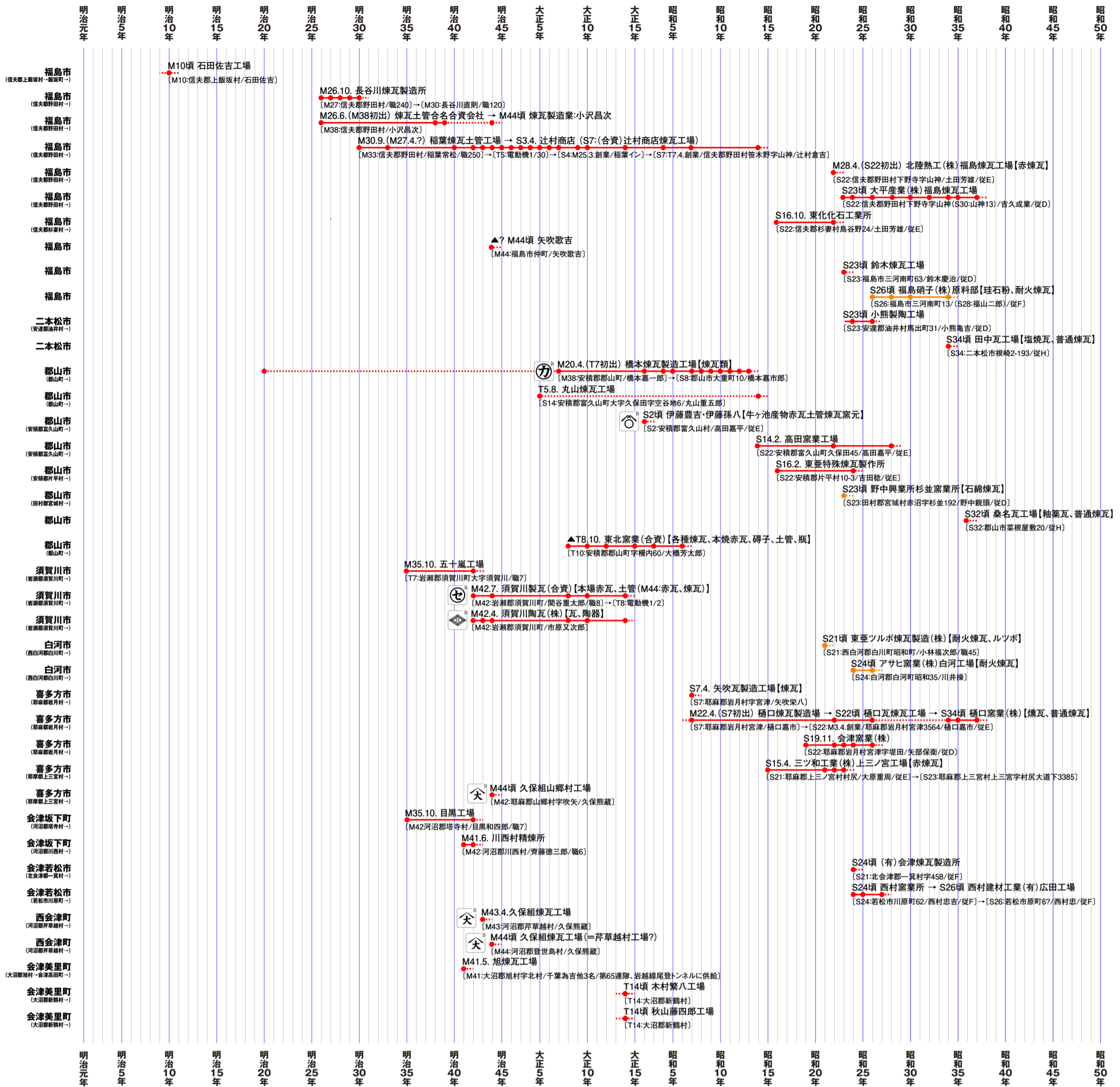


岩手県下煉瓦工場の消長

【データ出典】水野信太郎「日本煉瓦史の研究」、明治10年内国
 勧業博覧会出品解説、日本帝国興業要覧、岩手県統計書(明治
 32、35、41、42、43、44、大正1、3、4、5、6、7、8)、工場通覧(明治
 35、40、42、大正8、9、10、昭和4、7、9、10、11、12、13、14、15、
 16、22、24、25、27、29、31、33、35、37、39、41、43、45、47、
 49)、大日本商工録(大正11、昭和3、5、6、18)、全国工場館山事
 業場名簿(昭和22)、日本工業要鑑(第12、16、17、19、22版)



福島県下煉瓦工場の消長(1)



福島県下煉瓦工場の消長(2)

【データ出典】明治十年内国勲業博覧会出品解説、日本帝国興業要覧、福島県統計書(明治27、28、29、33、36、37、38、39、40、42、43、44、大正1、3、4、5、6、7、8)、工場通覧(明治35、40、42、大正8、9、10、昭和4、7、9、10、11、12、13、14、15、16、22、24、25、27、29、31、33、35、37、39、41、43、45、47、49、51、53)、大日本商工録(大正11、14、昭和3、6、18)、商工興信録北海道・奥羽地方(大正1)、業路録(大正14)、帝国商工信用録(昭和13分冊)、全国工場鑑(山事業場名簿(昭和22)、日本工業要鑑(第3、4、5、6、7、8、12、14、16、17、19、26、27版)、佐藤一男「大沼郡会津高田町北村の旭煉瓦工場について」(会津若松市史研究第8号)、渋沢社史データベース(品川白煉瓦社史)